

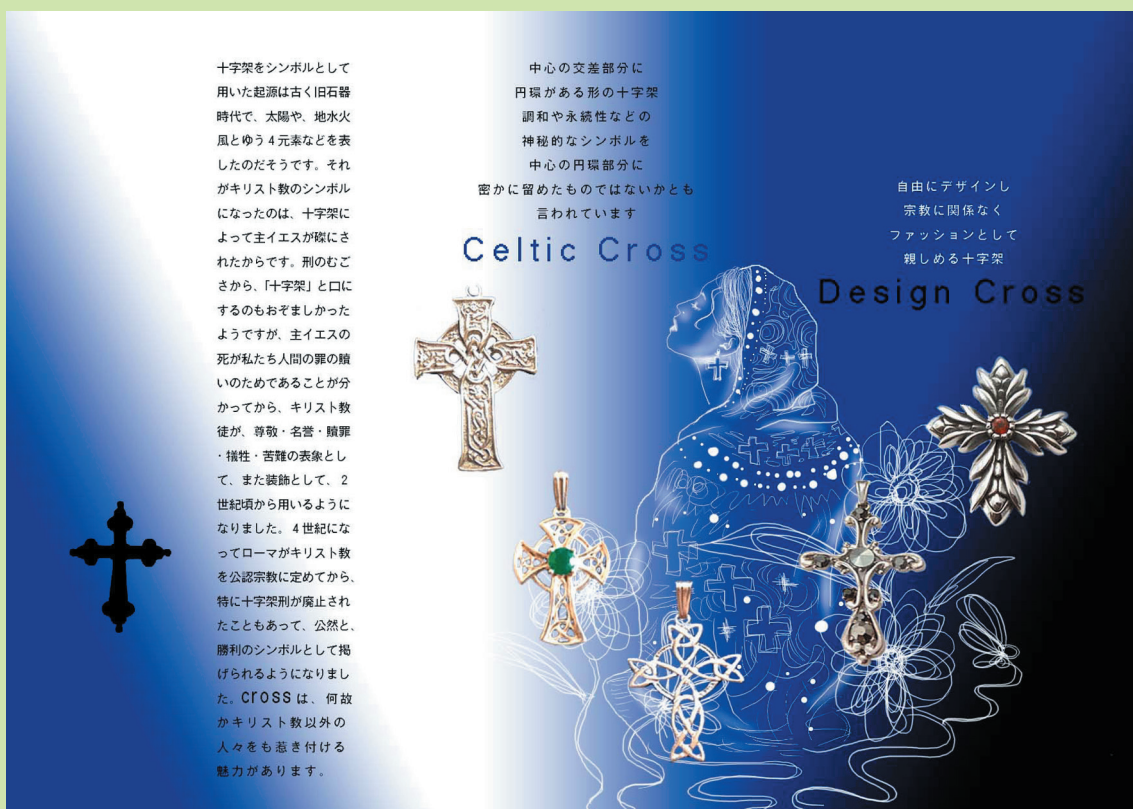
大学評価 学位授与

機構ニュース

National Institution for Academic Degrees and
University Evaluation

第36号

平成16年12月発行



「cross exhibition」 萩原 久美子

平成15年度学士（芸術学）取得者

主な記事

- | | | | |
|------------------|---|-------------|----|
| ◆大学評価事業の状況 | 1 | ◆機構の窓 | 7 |
| ◆学位授与事業の状況 | 3 | ◆転任挨拶 | 13 |

目 次

◆大学評価事業の状況

■大学機関別認証評価について

- 実施大綱、評価基準の策定及び認証評価機関としての認証の申請 1
- 自己評価実施要項、評価実施手引書及び訪問調査実施要項の策定 1

■短期大学機関別認証評価について

- 実施大綱、評価基準の策定及び認証評価機関としての認証の申請 1
- 自己評価実施要項、評価実施手引書及び訪問調査実施要項の策定 1

■高等専門学校機関別認証評価について

- 訪問調査の実施 1

■法科大学院認証評価について

- 基準要綱の策定及び認証評価機関としての認証の申請 2
- 自己評価実施要項、評価実施手引書及び訪問調査実施要項の策定 2

■国立大学教育研究評価について

- 国立大学教育研究評価委員会の設置 2

■試行的評価に関する検証について

- 試行的評価に関する検証結果報告書の作成 2

◆学位授与事業の状況

■短期大学・高等専門学校卒業生、専門学校修了者等に対する学士の学位授与関係

- 2,289人から学士の学位授与の申請 —平成16年度10月期申請分— 3

■認定課程（各省庁大学校）修了者に対する学位授与関係

- 19人から博士の学位授与の申請 —大学院博士課程相当の課程修了者— 4

■課程認定（各省庁所管大学校）関係

- 課程の認定申出 —国立看護大学校研究課程部看護学研究科— 4

■専攻科の認定関係

- 短期大学・高等専門学校の専攻科（平成17年度認定の申出状況） 4

■教育の実施状況等の審査

- 短期大学・高等専門学校の専攻科 4
- 各省庁大学校認定課程 6

◆機構の窓

- 会議の開催状況 7
- 研究部研究会開催状況 9
- 委員の異動 9
- 人事異動（平成16年9月～平成16年11月） 10
- 海外渡航一覧（平成16年9月～平成16年11月） 10
- 自己啓発研修「一般英会話」の実施 11
- 初任職員研修の実施 11
- 自衛消防訓練の実施 12
- 永年勤続者表彰 12

◆転任挨拶

- 前評価研究部教授 大塚 雄作 13

（表紙の作品の解説）

これは、架空に設定した十字架展「cross exhibition」の三つ折りパンフレットです。フライヤーと違いパンフレットにはめくる楽しさや、面白さがあると思います。

そして、十字架には、宗教に関係なく、人を引きつけるものがあると思います。そういった魅力と共に、キリスト教の尊敬・名誉・贖罪・犠牲・苦難のイメージを表現したいと思い制作しました。

十字架の神聖なイメージを出すために、落ち着いた青を基調にし、統一感を持たせるために写真の部分以外は、白と黒だけを使いました。また、パンフレットを開いた時、その中に光が射すようなイメージになるように、グラデーションで表現しました。そして、十字架の写真の配置には流れが出るようにし、十字架とイラストが調和するようにバランスを考えました。写真から文字、文字から写真、それを繋ぐイラスト、というような流れで、自然に視線が動くように、人が見る時の視線の流れを意識しながらデザインしました。

横浜美術短期大学専攻科修了生 萩原 久美子（平成16年3月学位取得）

大学評価事業の状況

大学機関別認証評価について

○ 実施大綱、評価基準の策定及び認証評価機関としての認証の申請

大学機関別認証評価委員会において、大学機関別認証評価の評価基準及び評価方法について検討を行い、平成16年10月に大学機関別認証評価における基本的方針及び評価の実施に関する基本的な内容を記載した「大学機関別認証評価実施大綱」並びに「大学評価基準（機関別認証評価）」を策定し、公表しま

した。

また、平成16年10月22日付けで、学校教育法第69条の4第1項の規定に基づき、文部科学大臣に対して大学の評価を行う認証評価機関として認証の申請を行いました。詳しくは、当機構のウェブサイト (<http://www.niad.ac.jp/>) に掲載しています。

○ 自己評価実施要項、評価実施手引書及び訪問調査実施要項の策定

大学機関別認証評価委員会において、平成17年度に機構が実施する大学機関別認証評価について、対象大学が評価を受ける際に行うこととなる自己評価の方法等について記載した「自己評価実施要項」、当機構の評価担当者が評価を行う際の具体的な評価方法等について記載した「評価実施手引書」並びに

対象大学が訪問調査を受ける際に準備及び対応いただくこととなる事項等について記載した「訪問調査実施要項」を策定し、公表しました。詳しくは、当機構のウェブサイト (<http://www.niad.ac.jp/>) に掲載しています。

短期大学機関別認証評価について

○ 実施大綱、評価基準の策定及び認証評価機関としての認証の申請

短期大学機関別認証評価委員会において、短期大学機関別認証評価の評価基準及び評価方法について検討を行い、平成16年10月に短期大学機関別認証評価における基本的方針及び評価の実施に関する基本的な内容を記載した「短期大学機関別認証評価実施大綱」並びに「短期大学評価基準（機関別認証評価）」

を策定し、公表しました。

また、平成16年10月22日付けで、学校教育法第69条の4第1項の規定に基づき、文部科学大臣に対して短期大学の評価を行う認証評価機関として認証の申請を行いました。詳しくは、当機構のウェブサイト (<http://www.niad.ac.jp/>) に掲載しています。

○ 自己評価実施要項、評価実施手引書及び訪問調査実施要項の策定

短期大学機関別認証評価委員会において、平成17年度に機構が実施する短期大学機関別認証評価について、対象短期大学が評価を受ける際に行うこととなる自己評価の方法等について記載した「自己評価実施要項」、当機構の評価担当者が評価を行う際の具体的な評価方法等について記載した「評価実施手引

書」並びに対象短期大学が訪問調査を受ける際に準備及び対応いただくこととなる事項等について記載した「訪問調査実施要項」を策定し、公表しました。詳しくは、当機構のウェブサイト (<http://www.niad.ac.jp/>) に掲載しています。

高等専門学校機関別認証評価について

○ 訪問調査の実施

機構では、平成16年10月18日（月）から11月17日（水）まで高等専門学校機関別認証評価（試行的評価）の対象8校に対して、書面調査では知り得ない、あるいは確認できなかった事項を対象校の関係者と

の面談、授業の視察や施設等の状況調査により確認すること等を目的として訪問調査を実施しました。今後は、訪問調査での調査結果と書面調査の結果を総合的に判断し、評価結果の取りまとめを行います。

<訪問調査対象校一覧>

調査対象校	調査実施期間
金沢工業高等専門学校	平成16年 10月18日(月)～10月20日(水)
久留米工業高等専門学校	平成16年 10月20日(水)～10月22日(金)
徳山工業高等専門学校	平成16年 10月20日(水)～10月22日(金)
東京都立航空工業高等専門学校	平成16年 10月25日(月)～10月27日(水)
仙台電波工業高等専門学校	平成16年 10月27日(水)～10月29日(金)
近畿大学工業高等専門学校	平成16年 11月8日(月)～11月10日(水)
富山商船高等専門学校	平成16年 11月9日(火)～11月11日(木)
宮城工業高等専門学校	平成16年 11月15日(月)～11月17日(水)

法科大学院認証評価について

○ 基準要綱の策定及び認証評価機関としての認証の申請

法科大学院認証評価委員会において、法科大学院の認証評価の評価基準及び評価方法について検討を行い、平成16年10月に法科大学院の認証評価の基本方針、評価の実施に関する内容及び評価基準を定めた「法科大学院評価基準要綱」を策定し、公表しました。

また、平成16年11月11日付けで、学校教育法第69条の4第1項の規定に基づき、文部科学大臣に対して専門職大学院のうち法科大学院の評価を行う認証評価機関として認証の申請を行いました。詳しくは、当機構のウェブサイト (<http://www.niad.ac.jp/>) に掲載しています。

○ 自己評価実施要項、評価実施手引書及び訪問調査実施要項の策定

法科大学院認証評価委員会において、対象法科大学院が評価を受ける際に行うこととなる自己評価の方法等について記載した「自己評価実施要項」、当機構の評価担当者が評価を行う際の具体的な評価方法等について記載した「評価実施手引書」並びに対象

法科大学院が訪問調査を受ける際に準備及び対応いただくこととなる事項等について記載した「訪問調査実施要項」を策定し、公表しました。詳しくは、当機構のウェブサイト (<http://www.niad.ac.jp/>) に掲載しています。

国立大学教育研究評価について

○ 国立大学教育研究評価委員会の設置

国立大学法人法第35条において読み替えて準用する独立行政法人通則法第34条第2項の規定により国立大学法人評価委員会から実施を要請される国立大学及び大学共同利用機関の教育研究の状況についての評価を審議するための「国立大学教育研究評価委員会」及び当該評価に係る論点整理等を行うための「ワーキンググループ」を設置し、それぞれ次のとおり開催しました。

国立大学教育研究評価委員会

- 第1回 9月3日(金) 学術総合センター
- 第2回 11月16日(火) 学術総合センター

国立大学教育研究評価委員会ワーキンググループ

- 第1回 9月24日(金) 学術総合センター
- 第2回 11月4日(木) 学術総合センター

試行的評価に関する検証について

○ 試行的評価に関する検証結果報告書の作成

試行的評価に関する検証委員会において、「大学評価・学位授与機構が平成12年度から平成15年度までに実施した試行的評価に関する検証について－試行的評価に関する検証結果報告書－」が取りまとめ

られました。

本報告書については、当機構のウェブサイト (<http://www.niad.ac.jp/>) に掲載しています。

学位授与事業の状況

短期大学・高等専門学校卒業生、専門学校修了者等に対する学士の学位授与関係

○ 2,289人から学士の学位授与の申請

— 平成16年度10月期申請分 —

短期大学・高等専門学校卒業生及び専門学校修了者等 2,289人から、19専攻分野39専攻区分にわたり学士の学位授与の申請がありました。これは、前年度同期の申請者数（平成15年度10月期 2,129人）と比べ、160人の増となっています。

これに基づき、機構長から平成16年11月9日（火）開催の学位審査会に学士の学位授与に係る審査の付託があり、学位審査会では、修得単位、学修成果及び試験の審査を担当する専門委員会の指定が行われました。

各専門委員会における修得単位、学修成果及び試験の審査を経て、平成17年2月10日（木）開催の学位審査会で最終審査が行われ、合格者には平成17年3月末までに、学士の学位が授与される予定です。

＜平成16年度10月期の申請者数＞

【基礎資格別】

区 分	申請者数 (人)
短期大学卒業生	1,031
高等専門学校卒業生	1,131
専門学校修了者	96
大学中退者	20
飛び級	4
大学卒業生	5
外国資格	2
合 計	2,289

【見込申請者の内訳】

区 分	申請者数 (人)
短期大学専攻科修了見込者	861
高等専門学校専攻科修了見込者	1,128
合 計	1,989

【専攻区分別】

専攻分野	専攻区分	申請者数 (人)
文 学	国 語 国 文 学	10
	英 語 ・ 英 米 文 学	2
	独 語 ・ 独 文 学	1
	歴 史 学	5
	心 理 学	1
教 育 学	教 育 学	188
社 会 学	社 会 福 祉 学	1
教 養	比 較 文 化	1
	地 域 研 究	5
	国 際 関 係	1
学 芸	科 学 技 術 研 究	1
法 学	法 学	2
商 学	商 学	4
経 営 学	経 営 学	5
理 学	物 理 学 ・ 地 学 系	1
	生 物 学 系	2
	総 合 理 学	1
看 護 学	看 護 学	121
保 健 衛 生 学	検 査 技 術 科 学	42
	臨 床 工 学	5
	放 射 線 技 術 科 学	101
	理 学 療 法 学	15
	作 業 療 法 学	8
鍼 灸 学	鍼 灸 学	7
栄 養 学	栄 養 学	252
工 学	機 械 工 学	334
	電 気 電 子 工 学	370
	情 報 工 学	92
	応 用 化 学	128
	生 物 工 学	20
	材 料 工 学	23
	土 木 工 学	122
	建 築 学	56
芸 術 工 学	芸 術 工 学	32
農 学	農 学	15
家 政 学	家 政 学	1
芸 術 学	音 楽	95
	美 術	215
体 育 学	体 育 学	4
合 計	合 計	2,289

認定課程（各省庁大学校）修了者に対する学位授与関係

○ 19人から博士の学位授与の申請 —大学院博士課程相当の課程修了者—

大学院の博士課程に相当する教育を行う課程として認定されている防衛医科大学校医学教育部医学研究科の平成16年9月修了者19人から、博士の学位授与申請がありました。

これに基づき、機構長から平成16年11月9日（火）開催の学位審査会に博士の学位授与に係る審査の付託があり、学位審査会では、論文及び試験の審査を担当する専門委員会の指定が行われました。

専門委員会における論文及び試験の審査を経て、平成17年2月10日（木）開催の学位審査会で最終審査が行われ、合格者には、平成17年3月末までに、博士の学位が授与される予定です。

<博士の学位授与申請者数>

認定課程名	専攻分野	申請者数(人)
防衛医科大学校 医学教育部医学研究科	医学	19

課程認定（各省庁所管大学校）関係

○ 課程の認定申出 —国立看護大学校研究課程部看護学研究科—

大学院の修士課程に相当する教育を行う課程としての認定について、平成16年9月に、国立看護大学校研究課程部看護学研究科から認定の申出がありました。

これに基づき、機構長から平成16年11月9日（火）開催の学位審査会に課程の認定に係る審査の付託があり、学位審査会では、審査を担当する専門委員会の指定が行われました。

専門委員会における教育課程等の審査を経て、平成17年2月10日（木）開催の学位審査会で最終審査が行われる予定です。

専攻科の認定関係

○ 短期大学・高等専門学校専攻科（平成17年度認定の申出状況）

短期大学及び高等専門学校に設置された専攻科のうち、大学教育に相当する水準を有する等、機構が定める要件をみたまの認定について、平成17年度の申出が平成16年9月30日（木）で締め切れ、15校21専攻科から認定の申出がありました。そのうち、短期大学は7校8専攻、高等専門学校は8校13専攻となっています。

これに基づき、機構長から平成16年11月9日（火）開催の学位審査会に専攻科の認定に係る審査の付託があり、学位審査会では、審査を担当する専門委員会の指定が行われました。

各専門委員会における教育課程等の審査を経て、平成17年2月10日（木）開催の学位審査会で最終審査が行われる予定です。

教育の実施状況等の審査

機構が認定した専攻科や各省庁大学校認定課程については、原則として5年ごとに教育の実施状況等の審査を行っています。

○ 短期大学・高等専門学校専攻科

本年度は、短期大学の認定専攻科のうち14校18専攻及び高等専門学校の認定専攻科のうち6校15専攻について教育の実施状況等の審査を行っています。各専門委員会における教育課程等の審査を経て、平成17年2月10日（木）開催の学位審査会で最終審査が行われる予定です。

また、平成17年度は、短期大学の認定専攻科のうち23校33専攻及び高等専門学校の認定専攻科のうち10校24専攻が審査対象で次表のとおりとなっています。

＜平成17年度教育の実施状況等の審査対象専攻一覧＞

(認定適用年月日：平成7年4月1日・平成12年4月1日)

1. 短期大学専攻科 (23校33専攻)

	専攻科名	専攻名	入学定員	修業年限	設置者
1	九州大学医療技術短期大学部専攻科	助産学特別専攻	20	1年	国立大学法人九州大学
2	高岡短期大学部専攻科	地域ビジネス専攻	6	2年	国立大学法人高岡短期大学
		産業造形専攻	14	2年	
		産業デザイン専攻	5	2年	
3	県立新潟女子短期大学専攻科	食物栄養専攻	10	2年	新潟県
4	愛媛県立医療技術短期大学専攻科	地域看護学専攻	30	1年	愛媛県
5	札幌大谷短期大学専攻科	保育専攻	10	2年	学校法人札幌大谷学園
		音楽専攻	30	2年	
		美術専攻	20	2年	
6	尚綱学院大学女子短期大学部専攻科	生活科学専攻	10	1年	学校法人尚綱学院
7	聖霊女子短期大学専攻科	健康栄養専攻	10	2年	学校法人聖霊学園
8	郡山女子大学短期大学部専攻科	文化学専攻	20	2年	学校法人郡山開成学園
9	国際学院埼玉短期大学専攻科	健康栄養専攻	20	2年	学校法人国際学院
10	聖徳大学短期大学部専攻科	国語専攻	15	2年	学校法人東京聖徳学園
		英語専攻	15	2年	
		仏語専攻	10	2年	
11	鶴見大学短期大学部専攻科	保育専攻	20	1年	学校法人総持学園
12	岐阜医療技術短期大学専攻科	地域看護学専攻	20	1年	学校法人神野学園
		助産学専攻	20	1年	
13	常葉学園短期大学専攻科	国語国文専攻	20	2年	学校法人常葉学園
14	名古屋文理短期大学専攻科	食物科学専攻	10	2年	学校法人滝川学園
15	藤田保健衛生大学短期大学専攻科	臨床工学技術専攻	20	1年	学校法人藤田学園
16	大阪音楽大学短期大学部専攻科	作曲専攻	2	1年	学校法人大阪音楽大学
		声楽専攻	5	1年	
		器楽専攻	8	1年	
17	大阪城南女子短期大学専攻科	福祉専攻	60	1年	学校法人城南学園
18	産業技術短期大学専攻科	生産工学専攻	15	2年	学校法人鉄鋼学園
		電気・情報工学専攻	15	2年	
19	頌栄短期大学専攻科	保育専攻	20	2年	学校法人頌栄保育学院
20	山陽学園短期大学専攻科	食物栄養学専攻	10	1年	学校法人山陽学園
21	九州女子短期大学専攻科	体育学専攻	20	2年	学校法人福原学園
22	佐賀短期大学専攻科	食物栄養専攻	30	2年	学校法人永原学園
23	鹿児島国際大学短期大学部専攻科	音楽演奏専攻	5	2年	学校法人津曲学園

2. 高等専門学校専攻科（10校24専攻）

専攻科名		専攻名	入学 定員	修業 年限	設置者
1	群馬工業高等専門学校専攻科	生産システム工学専攻	12	2年	独立行政法人 国立高等専門学校機構
		環境工学専攻	8	2年	
2	長岡工業高等専門学校専攻科	電気機械システム工学専攻	12	2年	独立行政法人 国立高等専門学校機構
		物質工学専攻	4	2年	
		環境都市工学専攻	4	2年	
3	石川工業高等専門学校専攻科	電子機械工学専攻	12	2年	独立行政法人 国立高等専門学校機構
		環境建設工学専攻	8	2年	
4	岐阜工業高等専門学校専攻科	電子システム工学専攻	12	2年	独立行政法人 国立高等専門学校機構
		建設工学専攻	8	2年	
5	舞鶴工業高等専門学校専攻科	電気・制御システム工学専攻	8	2年	独立行政法人 国立高等専門学校機構
		建設・生産システム工学専攻	8	2年	
6	徳山工業高等専門学校専攻科	機械制御工学専攻	4	2年	独立行政法人 国立高等専門学校機構
		情報電子工学専攻	4	2年	
		環境建設工学専攻	4	2年	
7	高知工業高等専門学校専攻科	機械・電気工学専攻	8	2年	独立行政法人 国立高等専門学校機構
		物質工学専攻	4	2年	
		建設工学専攻	4	2年	
8	熊本電波工業高等専門学校専攻科	電子情報システム工学専攻	8	2年	独立行政法人 国立高等専門学校機構
		制御情報システム工学専攻	8	2年	
9	鹿児島工業高等専門学校専攻科	機械・電子システム工学専攻	8	2年	独立行政法人 国立高等専門学校機構
		電気情報システム工学専攻	8	2年	
		土木工学専攻	4	2年	
10	神戸市立工業高等専門学校専攻科	機械システム工学専攻	8	2年	神戸市
		都市工学専攻	4	2年	

教育の実施状況等の審査	短期大学専攻科	23校 33専攻
	高等専門学校専攻科	10校 24専攻
合 計		33校 57専攻

○ 各省庁大学校認定課程

本年度は、独立行政法人水産大学校水産学研究科について教育の実施状況等の審査を行っています。専門委員会における教育課程等の審査を経て、平成17年2月10日（木）開催の学位審査会で最終審査が行われる予定です。

機 構 の 窓

○ 会議の開催状況

運営委員会

第4回 平成16年9月16日（木）

・ 議事

- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| (1) 評価研究部専任教員の選考について | (6) 評価事業について |
| (2) 評価研究部特任教員の選考について | ① 試行的評価に関する検証の実施について |
| (3) 国立大学教育研究評価委員会専門委員の選考について | ② 認証評価機関としての文部科学省への申請について |
| (4) 学位審査会専門委員の選考について | ③ 大学情報データベースの構築について |
| (5) 会長一任による各種委員会委員の追加発令について | (7) 学位授与事業について |

大学機関別認証評価委員会

第3回 平成16年10月7日（木）

・ 議事

- (1) 自己評価実施要項、評価実施手引書及び訪問調査実施要項について
- (2) その他

短期大学機関別認証評価委員会

第4回 平成16年9月3日（金）

・ 議事

- (1) 評価の実施方法について
- (2) その他

第6回 平成16年10月14日（木）

・ 議事

- (1) 自己評価実施要項、評価実施手引書及び訪問調査実施要項について
- (2) その他

第5回 平成16年10月1日（金）

・ 議事

- (1) 評価の実施方法について
- (2) その他

高等専門学校機関別認証評価委員会

高等専門学校機関別認証評価委員会運営小委員会

第3回 平成16年9月30日（木）

法科大学院認証評価委員会

第2回 平成16年9月1日（水）

・ 議事

- (1) 法科大学院評価基準要綱（案）について
- (2) 評価の実施方法について
- (3) その他

第3回 平成16年10月29日（金）

・ 議事

- (1) 法科大学院評価基準要綱について
- (2) 評価の実施方法について
- (3) その他

法科大学院認証評価委員会運営連絡会議

第4回 平成16年10月13日（水）

国立大学教育研究評価委員会

第1回 平成16年9月3日(金)

・議事

- (1) 国立大学等の教育研究評価に係る検討事項について
- (2) ワーキンググループの設置について
- (3) 今後のスケジュールについて
- (4) その他

第2回 平成16年11月16日(火)

・議事

- (1) 国立大学等の中期目標に係る教育研究評価に関する論点について
- (2) 今後のスケジュールについて
- (3) その他

国立大学教育研究評価委員会ワーキンググループ

第1回 平成16年9月24日(金)

第2回 平成16年11月4日(木)

試行的評価に関する検証委員会

第3回 平成16年9月29日(水)

・議事

- (1) インタビューの実施状況について
- (2) 試行的評価の方法及び効果等に関するアンケート集計結果及び試行的評価に関する検証結果報告書・中間報告(仮称)素案について
- (3) その他

第4回 平成16年10月29日(金)

・議事

- (1) インタビュー結果について
- (2) 試行的評価に関する検証結果報告書(案)について
- (3) その他

学位審査会

第3回 平成16年11月9日(火)

・議事

- (1) 短期大学及び高等専門学校卒業生等に係る学士の学位授与の審査について
- (2) 認定課程修了者に係る博士の学位授与の審査について
- (3) 認定課程修了者に係る修士の学位授与の審査について
- (4) 認定課程修了者に係る学士の学位授与の審査について

- (5) 短期大学及び高等専門学校の専攻科に係る認定の審査について
- (6) 国立看護大学校の修士相当課程に係る認定の審査について
- (7) その他
・専攻区分「社会システム工学」に係る専攻基準について



学位審査会 (H16.11.9)

学位審査会専門委員会<平成16年9月~平成16年11月>

1. 審査事項

- ① 専攻科の認定に係る審査について
- ② 認定を受けた専攻科における教育の実施状況等の審査について
- ③ 学士の学位授与に係る審査について

2. 開催回数

文学・神学専門委員会 (国語国文学部会)	1回	工学・芸術工学専門委員会 (機械工学部会)	1回
(英語・英米文学部会)	1回	(電気電子工学部会)	1回
教育学専門委員会	1回	(情報工学部会)	1回
社会学専門委員会 (社会福祉学部会)	1回	(応用化学部会)	1回
教養・学芸専門委員会	1回	(材料工学部会)	1回
法学・政治学専門委員会	1回	(土木工学部会)	1回
経済学・商学・経営学専門委員会	1回	(建築学部会)	1回
理学専門委員会	1回	(社会システム工学部会)	2回
(数学・情報系部会)	1回	農学専門委員会	1回
(物理学・地学系部会)	1回	水産学専門委員会	1回
看護学・保健衛生学・鍼灸学専門委員会 (看護学部会)	1回	芸術学専門委員会 (音楽部会)	1回
家政学・栄養学専門委員会 (栄養学部会)	1回	(美術部会)	1回
		体育学専門委員会	1回
		商船学・海上保安専門委員会	1回

○ 研究部研究会開催状況

評価研究部研究会

公開講演会

平成16年11月16日(火)

・講演

- (1) ヨーロッパにおけるアクレディテーションの
発展とオランダ：視学官の視点から
〔オランダ高等教育視学官 Ko Scheele〕

講演会

平成16年11月18日(木)

・講演

- (1) オランダにおける新しいアクレディテーションの
実際
〔オランダ高等教育視学官 Ko Scheele〕

○ 委員の異動

運営委員会

運営委員会(機構の事業の運営実施に関する事項で機構長が必要と認めるものについて、機構長の諮問に依る。)の運営委員の大塚雄作氏が退任され、その後任として荻上紘一氏が就任されました。

・退任(平成16年9月30日)

氏名	退任時の職	在任期間
大塚雄作	大学評価・学位授与機構教授	平成16年4月1日～平成16年9月30日

・就任(平成16年10月1日)

氏名	現職	任期
荻上紘一	大学評価・学位授与機構教授	平成16年10月1日～平成18年3月31日

国立大学教育研究評価委員会専門委員

国立大学教育研究評価委員会専門委員に、2人の方が就任されました。

・就任(平成16年9月24日)

氏名	現職	任期
関啓子	一橋大学教授	平成16年9月24日～平成17年3月31日
脊山洋右	お茶の水女子大学教授	平成16年9月24日～平成17年3月31日

○ 人事異動（平成16年9月～平成16年11月）

年月日	氏名	異動内容		異動前等の職名
【評価研究部】				
16.10.1	大塚雄作	転出	京都大学高等教育研究開発推進センター教授	評価研究部教授
【管理部学位審査課】				
16.10.1	片桐圭太	採用	管理部学位審査課	
16.10.1	川上裕	採用	管理部学位審査課	

○ 海外渡航一覧（平成16年9月～平成16年11月）

所属・職名	氏名	渡航先	目的	渡航期間
評価研究部・助教授	米澤 彰純	フランス イギリス オランダ 中国	OECD/I MHE出席、大学評価に関する調査研究、科研費研究課題に関する研究発表、日英高等教育に関する打合せ、大学評価・研究評価に関する国際会議出席	H16. 8.24～H16. 9.30
学位審査研究部・教授	田中 正人	イギリス	回転機械の振動に関する国際会議出席、学位授与制度に関する調査	H16. 9.5～H16. 9.19
機 構 長	木村 孟	イギリス	日英高等教育に関する協力プログラムに関する事務打合わせ	H16. 9.21～H16. 9.24
評価研究部・助教授	米澤 彰純	韓 国	近代化課程における産業・労働政策と教育政策の整合・葛藤に関する比較社会学的研究の研究打合わせ、学術調査	H16. 10.10～H16. 10.13
評価研究部・客員教授	遠山 敦子	ス イ ス ド イ ツ	CERN50周年記念式典、大学評価に関する意見交換	H16. 10.18～H16. 10.23
管 理 部 ・ 部 長	栗城 繁夫	ス イ ス ド イ ツ	CERN50周年記念式典、大学評価に関する意見交換	H16. 10.18～H16. 10.23
評 価 事 業 部 評 価 調 査 室 ・ 室 長	秋保 聡	ス イ ス ド イ ツ	CERN50周年記念式典、大学評価に関する意見交換	H16. 10.18～H16. 10.23
学位審査研究部・教授	八木 克道	アメリカ合衆国	学位取得課程における単位認定と学習の体系性に関する調査	H16. 10.18～H16. 10.24
評価研究部・助教授	米澤 彰純	オランダ ド イ ツ イギリス	欧州の大学、国際教育機関における調査	H16. 10.31～H16. 11. 6
評価研究部・教授	佐久間健人	中 国	先進材料とプロセッシングに関する環太平洋国際会議出席	H16. 11. 1～H16. 11. 5
学位審査研究部・助教授	吉川裕美子	韓 国	学士取得課程の多様化に対応した単位認定学士の質保証および高等教育と労働市場の関係についての調査	H16. 11.16～H16. 11.20

○ 自己啓発研修「一般英会話」の実施

機構内において自己啓発研修「一般英会話」が、平成16年9月2日（木）から9月29日（水）までの約一ヶ月の間に計8回、参加を希望する機構職員を対象に、自己啓発促進として職員の英会話能力の向上意欲を支援することを目的に行われました。

英会話研修は、研修生の語学レベルに応じた5クラスに分かれ、外部より招いた外国人講師の指導のもとで実施され、研修生は熱心に参加していました。



外国人講師と英語を交える研修生

○ 初任職員研修の実施

独立行政法人大学評価・学位授与機構初任職員研修が、平成16年10月6日（水）、平成16年10月1日付けで採用された2人の職員を対象に、当機構の職員としての心構えや職務に当面必要とされる基礎知識の習得を目的に行われました。

栗城管理部長の「講話」をはじめ、管理部総務課長による「総務課関係業務について」、管理部会計課長による「会計課関係業務について」、管理部情報課長による「情報課関係業務について」、評価事業部企画調整室長による「大学評価事業について」の講義が行われ、最後に管理部総務課人事係長による「職員の服務について」の説明があり、研修生は熱心に聞いていました。



栗城管理部長の講話を聴く研修生

○ 自衛消防訓練の実施

小平地区自衛消防訓練を、東京消防庁小平消防署の協力を得て、平成16年度秋季全国火災予防運動期間中の平成16年11月12日（金）に実施しました。

当日は、午前7時から事務職員の緊急連絡網による連絡訓練を行い、緊急時の連絡体制の確認を行いました。

午前10時からは、本館1階サーバ室から出火したとの想定のもと、自衛消防隊による通報連絡、避難誘導、初期消火などの訓練を行い、その後消防署の指導により、屋内消火栓・消火器操作、応急救護の訓練を行いました。また、隣接する小平国際キャンパスより一橋大学及び放送大学東京多摩学習センターの各職員の方々にもご参加をいただきました。

訓練終了後、小平消防署より今回の訓練に対して、初回としては、全般的に良好な訓練であり、今後とも防火意識の高揚に努めてほしい旨の講評をいただきました。

最後に、自衛消防隊長である長谷川理事から、消防署関係者の協力・指導に対する謝辞及び挨拶が述べられ、訓練を終了しました。

その後、エントランスホールにおいて、当機構が備蓄している非常食の試食を実施し、防災意識の高揚を促すものとして職員間に好評をもって迎えられ、盛況のうちに終了しました。

なお、当日予定していたはしご車による救助や一斉放水等の消防署による活動演習は、あいにくの雨天のため中止となり、機会を見て改めて計画することといたしました。



屋内消火栓による消火訓練を行う機構職員



救命訓練を行う機構職員

○ 永年勤続者表彰

河本企画調整室長、平尾学位審査課課長補佐、手塚総務課企画第1係長が独立行政法人大学評価・学位授与機構職員永年勤続者表彰規則に基づき、永年勤続者表彰を受けられました。平成16年11月16日（火）、機構長室において木村機構長より表彰状が授与され、次いで機構からの記念品が贈呈されました。

この後、表彰を受けられた3名の方々は、機構長、荒船理事、長谷川理事、栗城管理部長、馬場評価事業部長、齊藤総務課長、鈴木学位審査課長とともに記念写真を撮り、機構長よりお祝いと労いの言葉をいただいた後、謝辞を行い、思い出話や今後の抱負などについてひとときの間歓談されました。



向かって左上、齊藤総務課長、栗城管理部長、荒船理事、長谷川理事、馬場評価事業部長、鈴木学位審査課長、向かって左下、河本企画調整室長、木村機構長、平尾学位審査課課長補佐、手塚総務課企画第1係長



「手作りの評価」を大切に

大塚 雄作



機構には専任として4年間お世話になったこととなります。その間、大学評価の全学テーマ別評価を主に担当し、他では決して得られない貴重な体験を積み重ねさせていただきました。

4年前の機構ニュースに赴任の挨拶文を掲載させていただいておりますが、その題名は、「元気の出る評価を目指して」というものでした。それはまさに「改善に資する評価」であって、私の目指すものは、機構の評価の第一の目的に相当するものでした。その目的の達成に向けて、機構の大学評価は、基本的には、大学に元気を出してもらおうべく設計されてきたと思います。「目的および目標」に即した評価、「自己評価」に基づく評価など、各大学が個性を主体的に伸ばしていくための基本的枠組みが実際に組み込まれ、それに従って評価も実施されました。

しかし、そのような評価は、非常に労力のいるものでもあります。一つ一つの大学ごとに、大学の背景に応じた独自の目的・目標が示されてきますから、それに応じて異なる評価基準が構成されることとなります。つまり、大学ごとに、「手作りの評価」を行っていくこととなります。「手作りの評価」ですから、特にはじめの頃は、ばらつきも大きかったのではないかと思いますし、機構の評価に対する風当たりもかなりきつかったと思います。至らぬ評価結果が大学にフィードバックされたことも多々あったかと思います。でもそれは、機構の評価が世界的に遅れているということでは決してないと思います。「手作りの評価」に馴れていないということはもちろんありますが、そのような「手作りの評価」は先進的な試みであって、機構は非常に難しい評価にチャレンジしてきたと思っています。まだまだそれを消化し切れていないところはあるにしても、中には、「手作り」ならではの味わいのある評価結果がフィードバックされたということもあったのではないかと思います。

いずれにしても、我が国で初めての大学評価ということで、評価を作るにも、評価を行うにも、手探り状態で摺り足で少しずつ前に進んでいくというような感じで4年間で過ぎてきたように思います。そんな中で、私が最後の年度に担当した試行的段階の評価のメタ評価調査で、大学のさまざまな改善事例に遭遇できたこ

とは嬉しいことでした。もちろん、大学が改善したり、新たに事を起こすということは、評価結果が直接もたらしているとは短絡的に結論づけられることではありませんが、とにかく、何らかのムーヴメントが大学の中で起こりつつあることは確かなようです。また、自己評価の充実や改善のための評価の趣旨も、まだまだ大学の一部ではあるようですが、少なくとも、大学で評価を担当された先生方の間では想像以上に浸透してきたという印象も得られました。機構の評価の中心は何と言っても大学自身の自己評価であるわけですから、そのような「大学の自律性」が見えつつあるようになってきていることは何より嬉しいことでした。

一方で、4年前に危惧していたことでもありますが、「評価疲れ」や「評価のための評価」という風潮もちらほら散見されもしています。特に、評価に対する負担感は、その調査でも顕著に浮き彫りにされました。

「元気が出る評価」という目標は、残念ながら、4年という機構の在籍期間には十分には達成できなかったというのが、私自身の自己評価にならざるを得ません。

評価は、今年度から新たなフェーズに入りました。まだまだ試行錯誤を繰り返しながら、みんなで知恵を出し合って、有効な評価のシステムを作っていく産みの苦しみを味わっていかねばならない段階にあると思います。特に、説明責任の間われる時代に、評価は避けられないことでもあり、すべての大学が評価に巻き込まれていきます。機構はその「量」に負けることなく、「手作りの評価」の精神を大切にしていってほしいと思います。その精神を忘れなければ、私はいつか、そういう評価文化も育っていき、「元気の出る」評価が実現してくれるのではないかと期待しています。私自身は、これからは大学側の立場から、その「手作り」の味が十分に生きるような「素材作り」に力を注ぐことを通して、機構の大切でかつとても難しい事業を盛り立てていくことができればと思っています。

おおつか ゆうさく 教育学修士

平成12年9月までメディア教育開発センター研究開発部メディア活用研究開発系研究主幹

平成12年10月から平成16年9月まで本機構評価研究部教授

平成16年10月から京都大学高等教育研究開発推進センター教授

専門：教育心理学、教育評価

編集後記

- ◇ 「大学評価・学位授与機構ニュース」第36号をお届けします。
- ◇ 評価事業の状況として、大学機関別、短期大学機関別、高等専門学校機関別、ならびに法科大学院、各々の認証評価についての概要が記されています。
- ◇ 学位授与事業では、平成16年度10月期の学位授与申請者数が2,289人となり、昨年同期と比べ160人増となりました。このような増加傾向は、今後も暫くは続くものと見込まれます。
- ◇ 8月の学位審査会で新しく設置が認められた専攻区分「社会システム工学」の部会が初めて開催されました。人社系分野と接する工学の学際的な新しい専攻区分として多くの申請者が期待されています。
- ◇ 河本企画調整室長、平尾学位審査課課長補佐、手塚総務課企画第1係長が永年勤続者表彰を受けられました。おめでとうございます。
- ◇ 平成16年10月1日付けで京都大学高等教育研究開発推進センターに異動された大塚雄作教授から転任のご挨拶を頂きました。新しい職場でのますますのご活躍をご期待申し上げます。
- ◇ 今号も、前号に引き続き、平成16年3月に芸術学で学士の学位を取得された方の作品が表紙を飾っています。これまでも審査員の先生方にご推薦頂いた作品を、31号、33号、35号と掲載して参りました。これからも素晴らしい作品で、随時、表紙を飾っていききたいと思います。

(M. K.)

編集 独立行政法人大学評価・学位授与機構広報委員会

連絡先 〒187-8587

東京都小平市学園西町1-29-1

独立行政法人大学評価・学位授与機構管理部総務課

電話/Fax 042-353-1516/1552

ホームページアドレス <http://www.niad.ac.jp/>

印刷 明誠企画株式会社

〒208-0022 東京都武蔵村山市榎2-25-5

電話 042-567-6233